

人のとなりに

谷口 尚也さん



「人のとなりに」とは…
文字通り、その人の隣にいて、思いに寄り添うことや人柄を表す言葉「人となり」をイメージしたコーナーで、人物や活動の紹介だけでなく、その人の思いにスポットを当てることを目的としています。

2004(平成16)年からスタートした市比野温泉よさこい祭り。今年の11月30日の開催で20回を迎える。
今回は地域の活性化を第一に考え、市比野地区を盛り上げようと奮闘する実行委員長の思いに寄り添う。

賑やかな市比野をもう一度

「市比野の活気を取り戻したい」と話すのは、市比野温泉よさこい祭り実行委員長の2代目を務める谷口尚也さん。市比野温泉よさこい祭りが始まったきっかけは、かつて賑わっていた温泉街の活気を取り戻そうとみんなで試行錯誤しているときだった。活性化の手段は他にもあったが、温泉街という土地柄を生かそうと、四国のよさこい祭りを視察した。

地元を引っ張っていくために

2代目実行委員長を決めるとき、地元を再び盛り上げるため、自ら手を挙げたという。実行委員長として地域と関わる中で、意識していることは空気を「イベント」は一人だけで運営できるものではない。実行委員会や青年会をはじめ、地域の方々と参加者の協力で成り立っている。みんなが一緒に楽しめる、頑張ろうと思えるような雰囲気を作るようにしている」と話す。

これまで開催してきた約半分の天候に恵まれなかったという苦しい思い出もあるが、踊り子たちが笑顔で一生涯懸命踊っている姿や訪れたお客さんと触れ合い、笑顔を見ることが実行委員長と

してのやりがいの一つになっているという。お客さんが来ることで、温泉街のお店も賑わい、地域の活性化を維持するために欠かせないイベントとなっているそうだ。

温泉街全体を舞台に

市比野温泉よさこい祭りならではの魅力は、参加チームの踊り子が全員で踊る総踊りで、笑顔で楽しく踊る姿は圧巻。さらに、温泉街全体が会場になっていることも魅力。以前はメイン会場の他、複数の会場を設置していた。メイン会場をなくし、まち全体で踊りが踊られることで、お客さんの見やすさの向上、出店する店舗数の増加など、より温泉街の賑わいが戻ってきたという。会場内には、「まずは自分たちが楽しめる空間に」とフリー会場も設置。和太鼓やダンスなどよさこい以外の催しも実施され、誰もが楽しめる場になっている。また、踊り子たちが着用している衣装は手作りが多く、年々派手になっている。オリジナルの鳴子を入れたケースや足袋などにも注目だ。今年は20回目の記念の年。これまでのロゴマークを入れた手ぬぐいを配布するなど、記念イベントも実施予定だとか。

これからも地域と共に

この祭りに合わせて、全国各地からたくさんの方が温泉街を訪れる。近年は、自分たちが子どもの頃に感じていた賑やかさと雰囲気は変わらないと嬉しそうに話す。

「同じことでも続けていくことが大切。頑張らない、諦めない」をモットーにこれからもまちを盛り上げるイベントとして続けていきたい。イベントに携わる若者も年々増えている。子どもから高齢者まで複数の世代が交流する場、育成の場として継続していきたい」と生まれ育ったまちへの思いを話してくれた。



▲薩摩川内観光物産ガイドホームページ

未来のために！子育てをみんなで楽しめる社会を

皆さんは「女性活躍推進」と聞いて、どんなイメージを持ちますか。

これは、性別に関係なく、誰もが自分らしく力を発揮できる環境づくりにつながる取り組みです。職場、家庭、地域など、さまざまな場面で、「みんなが考え」「気持ち」「行動」することで、みんなが安心して暮らせる社会を目指しています。

今回は、そんな社会づくりのために私たち一人一人ができることを紹介します。

1 「共育で」

共育でとは、子育てを家庭だけではなく地域・学校・行政・企業など、さまざまな立場の人が一緒に関わり支えていこうという考え方です。

共育でが浸透すると、例えば男性も育児休業(育休)が取りやすくなったり、家事や育児をパートナーと一緒にできるよくなる。また、地域や職場で温かく見守る仕組みが広がり、家族の絆が深まったり、子育て世代の負担が軽くなったり、孤立を防ぐことにもつながります。これは子どもたちが安心して育つ環境が整うだけではなく、地域全体でつながりも深まっていきます。

2 「イクボス推進」

イクボスとは、職場で働く部下や同僚のライフスタイルを理解し、応援できる上司やリーダーのことです。自分自身も家庭と仕事を両立しながら、組織の成果も出せる頼もしい存在です。

イクボスの取り組みが広がると、育児や介護をしている人だけでなく、職場全体の休みやすさにもつながります。みんなが安心して働ける環境が整うことで、働く意欲が高まり、職場の雰囲気も良くなるなど、組織力向上が期待できます。

イクボス宣言事業所の声

・連帯感や雰囲気も良くなり、誰かが休暇を取った時には他の社員でカバーし合うことで、仕事の生産性も下がらなくなり、良い環境となった。
・育休についての相談がしやすくなった。

・イクボス宣言ののつとり、年1回の面談を実施することで、社員一人一人の気持ちや環境づくりや家庭と仕事の両立につながっていている。



▲イクボス宣言事業所を紹介します

本市の取り組みを紹介①

令和6年に「良い親ではなく、笑っている親になろう」と題した共育で応援セミナーを開催しました。



参加者の声

・育児の大変さを夫にちゃんと伝えていなかったので、これからは話したい。
・仕事ばかりで妻に任せきりだったので、これからは両立したい。
・お互い楽しんで子育てしたい。

子育てをみんなで！私にできること

地域のイベントや活動への参加、登下校の見守り活動など、小さな「助け合い」、「共感」、「見守り」が第一歩となり、子どもたちと私たちの未来につながります。相手の気持ちに寄り添いながら、みんなで見守り、子どもも大人も笑顔になれる地域となるのが大切です。



自分らしく働くための 薩摩川内市 育休応援BOOK

育休取得時の勤務先との調整のコツなどが分かるガイドブックを作成！



問合せ先▶本庁コミュニティ課生涯学習・ひとみらい政策G(内線4741・4742)